

## W49a 「あかり」搭載遠赤外線サーベイヤー FIS の軌道上での性能評価

川田 光伸、芝井 広 (名大)、中川 貴雄 (ISAS/JAXA)、他「あかり」FIS チーム

FIS は、波長  $50\mu m$ – $180\mu m$  の範囲に 4 つの測光バンドを持ち、フーリエ分光器と併せて、空間分解能  $40''$ – $60''$  で撮像/分光観測を行う装置である。この装置は

- 点源検出感度  $200$ – $1000$  [mJy] での、全天サーベイ観測
- サーベイ観測よりも一桁感度の高い、特定天体のマッピング観測
- 感度波長域を波数  $\sim 1.2cm^{-1}$  あるいは  $\sim 0.2cm^{-1}$  で分光する、撮像分光観測

の 3 つの観測モードを有する。サーベイ観測は、既に半年を越える観測で全天の約 7 割をカバーし、IRAS のサーベイデータを波長域、空間分解能および感度で上回るデータを取得している。また、多数の天体や特定の領域に対して、高感度のマッピング観測や撮像分光観測も行われている。

「あかり」衛星および FIS は順調な運用が続けられており、観測データとともにキャリブレーションデータの蓄積も進んでいる。これらのデータは、観測データの精度、信頼性を向上させるために不可欠である。現在 FIS チームは、これらのキャリブレーションデータなどを用いて、視野特性や感度、フラックス較正およびその安定性など、軌道上での FIS の諸特性の評価を進めている。本講演では、前回の学会での動作報告に引き続き、FIS による観測の実施状況、および、FIS の性能・特性評価に関する現状について報告する。